

## 第2回 双葉町復興まちづくり委員会 きずな部会 議事概要

■日時：平成24年11月26日（月） 午後1時～午後2時45分

■場所：双葉町役場埼玉支所 4階 4-C

■出席者：別紙座席表のとおり

## ■議事概要

## 1. 開会

## 2. 議事

## (1) 双葉町の歴史・伝統・文化の継承について（審議）

資料2、3、4に基づき、事務局、オブザーバーより説明後、質疑。委員の主な意見は、以下のとおり。

- 文化財の保存について、指定文化財等は行政が保存するとして、個人所有の文化的価値があるものについて調査し、保存する必要がある。
- 5年で双葉町へ帰れるのか、150年で帰れるのか目標を議論すべき。
- 文化財よりも生活文化をどうするかが課題。歴史の中で残ってきたものには理由があるはず。有形、無形の写真を集めることも必要ではないか。
- 歴史民俗資料館へ収蔵されている重要なものは、福島県内の施設へ持ち出している。
- 検討すべき課題は二つある。継承すべき歴史・伝統・文化、あるいは双葉町そのものをどう継承するかということが一つ。また、二つ目としては、継承するための人の絆をどうつないで、人を育成するかということ。
- 町のコミュニティがバラバラに崩壊してしまっている中で、地域としての歴史・伝統・文化を復元する作業を進めるには、一人ではなかなか無理がある。調査チームなどの体制づくりも有効な手段なのではないか。
- 地域で語られていたものが失われていく。文化伝承は人から人へ語られるもの。今、資料として調査・整理しなければ、10年後には語り手が居なくなってしまう。個人的に地元地域の高齢者に対して聞き取り調査を行っている。
- 伝統・文化は、双葉町の長い歴史の中で生まれて、育まれて、今日まで守り伝わって来たもの。町の貴重な財産であり、町民の基礎を成してきたもの（アイデンティティ）。これを将来に向け、どのように向上、発展させていくかが大事。
- 文化財を大切に保存して、これを次の世代に継承することが大事。そのためには、文化財について積極的に公開・活用することにより、双葉町民に広く親しめるようにしていく必要がある。
- 双葉町が世界的に伝えるべきものは、原子力事故災害のことではないか。
- コミュニティの維持のためには、イベントなどで人を1ヶ所に集めることも重

要。遠方の避難先から集めるには、交通費・宿泊費の助成など、負担を軽減する支援策を検討すべき。また、所要の経費について、国などに訴えていくことも大事。

- 町民だけの議論ではなく、学者や専門家などの意見を聞くことも必要ではないか。
- 何よりも伝えていくことが大切。そのためには、記憶よりも記録にとっておく必要がある。
- 子どもたちの通う学校が必要なのはもちろんだが、双葉町の伝統・文化など、ものを伝える仕組みとしての学校も考えるべき。
- 伝統芸能については、まったく新たなものを生み出すのではなく、既存の文化を掘り起こすことで、新たな価値を創出できるのではないか。

## (2) その他

### 3. その他

### 4. 閉会

# 第2回きずな部会座席表

(敬称略)

岡村 高野  
隆夫 泉



1 日時 平成24年11月26日(月)

13:00~14:45

2 場所 双葉町埼玉支所 4階 4-C

中村 富美子
(代理) 横山 泰仁
松本 浩一
泉田 邦彦

宇杉 和夫	橋本
齊藤 宗一	事務局 西牧
岩元 善一	大内
大住 宗重	
今泉 祐一	事務局